事業所名　今治市社協グループホームゆいの里

作成日　：　令和元年　8月　5日（月）

目 標 達 成 計 画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	目標達成状況（任意）
1	5c	・介護計画に沿った支援は、事務の簡素化に向け支援項目に〇△×で記録し、カンファレンスで口頭にて確認・話し合っているが、その時の具体的内容を個別に記録する必要がある。	・介護計画に沿った支援内容や、一人ひとりの日々の暮しや様子（表情・言葉・行動・身体状況・エピソード）を詳しく個別に記録し、スタッフ間で情報を共有し、毎月のカンファレンスで統一したケアの提供に向けた具体的な援助内容を決め、提供していく。	・一人ひとりの日々の暮しの様子を、本人の思いや言葉・気付き・エピソード等、ケア記録を中心に、特に共有したい内容については輝きシートに記録、スタッフ間で共有し支援に活かす。また、介護計画に沿った内容であったかどうかの判断もカンファレンスで出た意見については随時記録し、次回の介護計画に盛り込んでいく。共有した具体的ケア内容については、実施した結果を次回のカンファレンスで協議しケア内容の見直しを随時行っていく。	1　か月	
2	40	・毎回地域の方々参加はあるが、メンバーが固定化してしまっている。	・開催に当たり、利用者本人はもちろん、家族や固定化したメンバー以外の方々にも参加をお願いし、色々な視点から意見が頂けるような会議の開催を目指す。	・小中高等学校の教員や駐在所・消防署の職員、ボランティアや老人クラブ・婦人会等の団体代表者など、地域を見守り支える立場の方々へ運営推進会議への参加をお願いし、様々な視点からの意見を頂き、今後のサービス提供や運営推進会議のあり方などの検討が出来るような会議の運営を行う。	12　か月	
3	40	・運営推進会議において意見や提案、取組みを活かせる会議の工夫や家族・利用者に参加して頂けるような工夫が必要である。	・運営推進会議において、もっと参加しやすい会議の雰囲気づくりを行い、事業所内の問題や行事等を報告し利用者、家族の参加やメンバーの方々の意見や提案頂きながらより良いサービスの提供へと結び付けていく。	・運営推進会議の開催内容を、お茶会や何かイベント等を交えた参加しやすい会議にする等の工夫を行い、家族や利用者さんが気軽に参加できる雰囲気を作り、参加頂く事で、事業所内の取組み日々の様子を報告し意見を頂ける様にする。また、家族に書面及び口頭で報告しながら参加しやすい雰囲気を感じて頂く。	12　か月	
3	49b	・平成30年度の自己評価について、口頭にての報告となっている。	・平成30年度の自己評価及び令和元年の外部評価報告を家族及び運営推進会議に報告し今後のモニターとして意見を頂き支援に活かす。	・毎年定期的に自己評価を実施し、事業所評価を利用者・家族へ文書で説明するとともに、評価結果についても意見を頂きながら、行った自己評価について再度スタッフみんなで見直す事で、より利用者や家族から望まれる、利用者・家族の立場に立ったサービスの提供が出来る様にする。	6　か月	
5					か月	

注1）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。
注2）項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。
注3）外部評価結果の通知を受けた日から30日以内に評価機関に報告してください。
注4）目標達成状況は任意となっております。期限に定めはありませんので、適宜評価機関に報告してください。

事業所名　今治市社協グループホームゆいの里
作成日　：　令和元　年　8　月　5　日

サービス評価の実施と活用状況表

事業所のサービス評価の実施と活用状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容（↓該当するものすべてに〇印）	
1	サービス評価の事前準備	〇	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		〇	②利用者へサービス評価について説明した
		〇	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		〇	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
			⑤その他（　　）
2	自己評価の実施	〇	①自己評価を職員全員が実施した
		〇	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		〇	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		〇	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
			⑤その他（　　）
3	外部評価（訪問調査当日）	〇	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		〇	②評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		〇	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
			④その他（　　）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	〇	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		〇	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		〇	③評価機関へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
			④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
			⑤その他（　　）
5	サービス評価の活用	〇	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		〇	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した（する）
		〇	③「目標達成計画」を評価機関へ説明し、提出した（する）
		〇	④「目標達成計画」に則り、目標達成に向けて取り組んだ（取り組む）
			⑤その他（　　）